

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4171100144
法人名	社会福祉法人 九栄会
事業所名	グループホーム 石動
訪問調査日	平成 19 年 10 月 29 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 28 日
評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会

**○項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかえる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171100144
法人名	社会福祉法人 久栄会
事業所名	グループホーム 石動
所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町石動3210番地 (電話) 0952-53-5420

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年10月29日	評価確定日	平成19年12月28日

## 【情報提供票より】(19年9月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺2階建造り 2階建ての1階～2階部分
------	---------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	14,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名		要介護4	1 名		
要介護5	1 名		要支援2		名	
年齢	平均	87 歳	最低	82 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	最所医院、肥前精神医療C、塚本歯科医院、松本医院(内科)、西谷クリニック
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯の住宅地を走る県道から約50メートル入った所にある2階建ての木造民家を建て増し改造したもので、若干手狭かなと思われる居間や食堂は特段飾らず気負わず、いかにも民家のわが家・家庭という風情で管理者の思いがうかがえる。時折方言も出る職員は親切で利用者のプライドや尊厳等を意識した対応をしている。開設当初から地域との密着・連携を目指した管理者の種々の取り組みが、地域密着型サービスとしての役割を反映している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題となった行政との係わりや協力体制については、町や地域包括支援センターとは課題解決のため、施設の実情やケアサービスの実情等話し、協力も得ており、又、介護教室を開催する等町との連携も取れてきつつある。又、運営推進会議の充実を図る為、会議を2ヶ月に1回開催し、報告内容も密になり、討議も意見・提案が活発になってきている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員がそれぞれ項目を割り振って自己評価し、ミーティングで討議し、さまざまな意見・考えが出された。すぐ出来る改善については即実施、長期にわたるものは計画的に進めていくことを申し合わせている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では老人と子供のふれあいのため一緒に七夕が出来ないか又、ふれあい祭り時に地区のテントやテーブルなど借りられないかなど提案されたものについて前向きに検討され会議参加メンバーの協力を得て実現している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に苦情・意見用の目安箱を設置している。家族訪問時や家族会等で意見・不満・苦情等がないか常に問いかけ、何でも気軽に話してもらえるような雰囲気作りをしている。出された意見や要望等はミーティングで話し合い、改善に繋げている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として自治会に加入している。ふれあい祭りや子どもクラブとの七夕を開催したり、地域の敬老会に手づくりの菓子を持っていく、文化祭に利用者の作品を出品している。会議や清掃等地域行事に積極的に参加したり、地域の人から雑巾や野菜を貰ったりと交流が行われている。介護教室の開催もしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時から地域との交流の重要性を認識していた為、家庭的な環境と地域住民との交流の下でのサービスという地域密着型の事業所独自の理念が作られている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝事務引継ぎ時に理念を読み上げ、管理者は日々理念に基づくケアのあり方について話しており、ミーティングでは理念にのった具体的なケアについて意見の統一が図られている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入しており、ふれあい祭りや子どもクラブとの七夕の開催、地区の老人会・敬老会・文化祭、清掃活動等行事にも積極的に参加するなど、地域との交流がある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がサービス評価の意義等を理解しており、自己評価を全員で行い、マンネリ化していたところや問題点を見出すなどサービスの質の向上に役立てている。外部評価の結果は公表し話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		評価の一連の過程を通じて見出された課題については、改善計画シートなども用いてより実りのあるものになる事も期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、メンバーからの提案等も多い。会議で出された意見や提案のうち検討事項や懸案事項については、その取り組み状況についても、意見を貰っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町や地域包括支援センターとは課題解決のため、施設の実情やケアサービスの取り組みなど話し、協力も得ており、又介護教室を開催するなど、町との連携が見受けられる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホームだよりを発行している。家族訪問時には行事の写真を見てもらったり日々の暮らしぶり等話している。遠方の家族には文書や電話で適宜様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置しているほか家族訪問時や家族会等で、常に問いかけ、何でも気軽に話してもらえるような雰囲気作りをしている。出された意見や要望等はミーティングで話し合い、改善に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人施設間の人事異動があるが、必要最小限の異動にとどめ、新人採用時も施設間の交流や異動者・退職者に遊びに来てもらったり、退職者を再雇用するなど、ダメージの防止・軽減に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は長期のものでも参加するなどできるだけ多くの職員が受講するようにしており、月に1回の施設内定例研修には全員参加している。各職員を交代で行事開催時の実行委員にしたり、日々のリーダーに決めるなど自覚や責任をもってサービスの質の向上を図ってもらえるようなトレーニングも行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者職員との勉強会や講師として招聘する等同業者との交流は行われている。又、利用者とともにイベントに参加したり・施設の見学をするなどして、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面談で生活状態を出来るだけ把握し、又、1週間程度の体験利用もしてもらい、本人・家族の求めていることや不安を理解しようとし、利用当初は出来るだけ回数多く家族に訪問してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員が、利用者は人生の先輩であると意識しており、日ごろから料理の下ごしらえから味付けまで、又、炊作りなど教えてもらう場面がある。職員と利用者は一緒に行動し、お互い支えあう関係を大事にしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりの中で情報の多面的把握に努めている。会話・表情・行動等からその真意を推し量ったりそれとなく確認したりするなど、本人の希望・意向の把握に努めている。但し、本人の思いや希望のみ重視すれば心身機能の維持・向上にマイナスとなる面も生じ兼ねない為、利用者本位に検討しながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中で得た本人や家族の希望・意向を反映させるようにしており、又、かかりつけ医師の意見も取り入れ、月例会議で全職員が意見を出し合って作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは、定期的に行われている。又、常態・状況の変化や本人・家族の要望に応じて随時介護計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じて通院介助や外出・外泊支援、定期的又は臨時的訪問診療・治療等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人なじみのかかりつけ医、又は本人・家族が希望する協力医療機関の中のかかりつけ医となっている。かかりつけ医の月に2回の訪問診療や臨時的往診があるなどかかりつけ医とは良好な関係を持っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化した場合の介護・看取り介護について明記されており、終末期に向けた対応については家族・職員・医師と十分話し合い、方針の共有を図っている。又、希望された家族からは同意書を提出してもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助等の声かけはさりげなく行われている。又、個人記録には他の利用者の名前は書かれていない。ホームだよりや掲示写真、研修資料等も家族の同意・了解を得て使用するなど、全職員が人としての尊厳を重視し利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、利用者は起床から消灯までその人にあつたペースで自由に時間を過ごしており、職員は一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の意見を取り入れたり、準備から後片付けまで出来る利用者には一緒にやってもらい、利用者と職員が同じテーブルで和やかに食事している。又、月に数回はみんなで弁当を作り屋外で食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人・家族の協力と同意を得て基本的には隔日、午後からとしているが、続けて入ったり就寝前に入るなど希望に任せて柔軟に対応し、入浴を楽しんでもらっている。頑固に入浴を拒まれる方には家族にも協力いただきながら対処している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野でそれぞれその人の経験や力を発揮してもらっており、お礼の言葉も伝えている。又、そのための場面作りにも配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設での外出行事や音楽リハビリのほか、その日の話の流れや思い付きの要望で散歩、買い物、ドライブ、弁当食べなど外出がよく行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が日中鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関や居室・窓に鍵はかけられていない。職員による見守りを徹底し、利用者の外出の気配を察知した場合、それを止めるではなく、さりげなく声をかけたり、又は同行するなどの対応が取られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については交流を深めながら協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取量を食事1,300キロカロリー、水2,000ccを目安としている。残食量は記録し、職員は水分を含めおおよその摂取量を把握している。調理場には食物のカロリー・栄養素群の表が掲示され献立づくりに活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には不快な音や光はなく、西日の当たる窓にはレースのカーテンが掛けられている。玄関には草花が活けられ、居間や廊下には季節の花の壁掛けや利用者手づくりの作品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には持ち込み自由であり、タンスや小物入れのほか、写真や飾り物、使い慣れた日用品、中にはお位牌もあり、利用者の居心地のよさに配慮している。		